

三種混合 予防接種

三種混合ワクチンは3つの感染症（百日咳、ジフテリア、破傷風）を予防するために混合して作られているワクチンです。乳幼児にはさらにポリオも加わった四種混合ワクチンを使用しています。

現在、2期接種は二種混合ワクチンをつかっていますが、百日咳の追加免疫を作るためにこの三種混合ワクチンを使うことが推奨されています（任意接種）。



予防接種の注意・お願い

予防接種を安心して受けるために、いくつかのことを心がけてください。

- 受ける予防接種について、病気のことやワクチンの効果・副反応などについて、あらかじめ知っていてほしいと思います。市町村からの文書や、育児書（雑誌）なども参考にしてください。分からぬことなどがありましたら、会場の職員や医師にたずねてください。
- 健康状態の良い時に受けましょう。心配なときは無理せずに延期したり、医師に相談してください。
- 前日は入浴して、体を清潔に。
- 予診票は、良く読んで、きちんと記入しましょう。
- 母子手帳も忘れずに。（個別接種では、念のために保険証も）
- 接種の会場で、体温を測り、記入します。
- 予期できない重篤な副反応が、注射のあと15～30分以内におきることがあります。すぐに帰らず、しばらく会場で様子を見ていてください。
- 接種の当日は、入浴を控めていつもと同じ生活でいいのですが、激しい運動はさけてください。



三種混合の予防接種は、ジフテリア、百日咳、破傷風の3つの病気に対するワクチンが混合してあります。

このうち、百日咳はまだときどきみかけますし、とくに赤ちゃんがかかると、呼吸を止めてしまうこともあります。大変に怖い病気です。お母さんからの移行免疫はほとんどなく、生れたすぐの赤ちゃんがかかることがあります。乳児期の早い時期に予防接種できちんと免疫を作ってください。

近年、年長児や成人の中で百日咳が流行することがあります。問題視されています。乳児期にワクチンで作られた免疫が数年から10年ほどで弱くなるためのようです。そのため、海外では成人用の百日咳ワクチンが製造されていて、大人になる前に追加接種をおこなう国が多くなっています。

日本ではまだ成人用ワクチンは作られていませんが、乳児期に使う百日咳ワクチンをそのまま使っても問題ないことが分かり、使用できるようになりました。11～12歳での2期の接種を、百日咳ワクチンの含まれている三種混合ワクチンを接種できます。

残念ながらまだ法律の改正が行われておらず、2期を三種混合ワクチンを用いる時は任意接種になります。

予防接種を受けたとの注意

※予防接種の副作用として、ごくまれに、注射の直後に急に具合の悪くなることがあります（アナフィラキシー・ショック）。万一のために15分程度は医院の中にいていただき、その後もしばらくは医院にすぐひきかえせるようにしてください。（その場で適切な処置をすれば、最悪の事態はさけられます。）

三種混合ワクチンは不活化してあるワクチンです。

次に受ける異なるワクチンとの接種間隔は、とくに制限はありません。

※ 2020年10月から

三種混合予防接種

【予防接種法による定期接種】

1期 生後3か月～90か月（7歳半）未満

初回は3～8週の間隔で3回（標準は3か月～12か月未満）

追加は初回完了後6か月以上おいて1回（標準は初回終了後12～18か月未満） [0.5mlずつ]

2期 11～12歳

（ジフテリア・破傷風二種混合） [0.1ml]

【任意接種】

2期 11～12歳 [0.5ml]

三種混合ワクチン（ジフテリア・百日咳・破傷風）

①注射したところは、適度にもんでください。

②今日は激しい運動は避けてください。（入浴はまいません）

③接種したあと、丸1日以内に熱をだすことがあります。

④注射したところがはれやすいワクチンです（回数をくりかえすほどはれやすい）。1～3日ぐらいで赤くなりだし、はれてきます。かゆみや痛みが強いようなら、診察を受けてください。（かゆくてひっかいていると、ますますはれがひどくなります。）かなりはれても、1週間～10日ぐらいでおさまります。

⑤今回が・1期の1回目・・・次は約4週間（3～8週間）後に2回目の注射

- ・ “ 2回目・・・次は約4週間（3～8週間）後に3回目の注射
- ・ “ 3回目・・・次は1年～1年半後に追加の注射
- ・ “ 追 加・・・1期は終了（基礎免疫の完成）

-
- ・ 2期（二種混合）・・・終了（追加免疫）